令和４年度第１回国分寺市青少年問題協議会

日　　時：令和４年５月６日（金）　午後２時～午後４時
場　　所：市役所　市役所第１・２委員会室
出席委員：宮田　万利子（会長），成瀬大輔（副会長），中村俊雄，田中久美子，彌永大介，薄井芳典，青木伸道，田中芳幸，辻川幸広，坂井由利子
事 務 局：子ども家庭部子ども若者計画課（千葉課長・城内係長）
傍 聴 者：１名

会　　長：それでは定刻になりましたので，これから国分寺市青少年問題協議会を開催させていただきたいと思います。協議会を開催するにあたり，本日の協議会の成立について，事務局から報告をお願いいたします。

事 務 局：本日の協議会の成立について，ご報告いたします。委員 11 名中，出席委員 10 名，欠席委員が１名，委員の過半数出席がございますので，国分寺市青少年問題協議会条例第５条の規定により，本日の会議が成立することを確認いたしました。よろしくお願いいたします。

　なお本日欠席の委員ですが，平見委員が４月１日の人事異動に伴いまして，後任の波田桃子さん変更となりました。新たに委嘱になったのですけれども，本日はご都合が合わなかったということで欠席の連絡を頂いております。次回以降にまたご挨拶等頂きたいと思っております。

会　　長：ありがとうございました。開催の確認ができましたので，これより令和４年度第１回国分寺市青少年問題協議会を開催いたします。

　では，次第に入る前に事務局から資料の確認をお願いいたします。

事 務 局：本日お配りさせていただいている資料を確認させていただきます。まず次第が１枚。それから資料１として「令和３・４年度国分寺市青少年問題協議会の活動計画案」をお配りしています。両面刷りのものになっております。続いて資料２として令和元年・２年度の青少年問題協議会で作成いたしましたポスターを白黒の印刷したものを１枚。資料３として，東大和市から当市に情報共有として送っていただきました青少年問題協議会のリーフレットを両面刷りで１枚お配りしています。それから，資料４として，「国分寺市子どもの居場所づくりハンドブック」の印刷したものをお配りしています。最後に資料５として，オレンジの冊子で「子育てガイド　ホッとおれんじこくぶんじ」をお配りさせていただいております。

　それから，本日追加資料といたしまして，「講演会のお知らせ」，黄色の用紙で「みんなの食堂たまり場」というものをお配りさせていただいております。なお「講演会のお知らせ」につきましては，坂井委員からの資料提供。それか

ら「みんなの食堂たまり場」の資料につきましては，田中委員からの資料提供となっております。以上です。

会　　長：ありがとうございます。講演会とイベントのお知らせなのですが，坂井委員，田中委員，申し訳ないのですが，先にご説明いただいてよろしいでしょうか。

委　　員：「講演会のお知らせ」ということで配付させていただきました。本校は国分寺市教育委員会の研究協力校ということで，２年間令和４年度，５年度研究を安全教育で進めさせていただきます。地域の力，保護者の力なくして安全教育は成り立たないということで，小金井警察をはじめ国分寺消防署ですとか，公共の方のお力も借りながら，子どもたちの安全ということについて研究を進めていきます。14 日土曜日の午後ですが，もしお時間がありましたら，ぜひ地域の方としてご参加いただけたらありがたいです。また本校の研究に関しましても何かお知恵もありましたら，ぜひご忌憚なくおっしゃっていただけたらとてもありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

会　　長：ありがとうございました。

委　　員：すみません。私たち「たまり場の会」という会をやっておりまして，子ども食堂をやりたいと目指していて，今回初めて食堂を試してみようと思いました。地域の交流の場ということを提案したいと思っていますので，よろしかったらのぞきに来ていただけたらと思って，今日お配りしました。よろしくお願いいたします。

会　　長：ありがとうございます。十小で行われる講演会，たまり場のみんなの食堂もそれぞれ地域での活動，とても大切なお話やイベントだと思いますので，ぜひお時間がある方は参加していただければと思います。ありがとうございます。

　それでは次第の２番目，協議事項に入らせていただきます。（1）「令和３年度の振り返りについて」ということで，令和３年度，去年度は一番最後が柴田先生にお話を賜りました。やっと３回目でテーマが決まりまして，「地域でやさしく育てよう子どもの心」ということで，このテーマに沿って今年度進めていきたいと思いますが，何か振り返りということで，前回の柴田先生の講演会とかも交えて何か感想とか，ご意見とか，それから本年度はこのように進めていければいいとか，何かご意見とかがありましたら，ぜひお聞かせいただきたいと思います。いかがでしょうか。

　柴田先生のお話の中で，学校とか保護者の縦の関係ではなく，やっぱり地域の人たちと斜めの関係で，斜めの関係が子どもたちにとってはとてもいい影響を与えるというお話がありましたが，私はそこが印象的だなと思ったのですが，私たちのそういった活動もそれにつながっていくのかなと思いました。

　何か講演会の感想でもよろしいですし，皆様からも何かありましたらお願いいたします。

委　　員：斜めの関係というお話，私も印象に残りまして，それで公教育がフォーマルで，

学校と家庭と，それだけの中で育つわけではなく，いろいろな角度から子どもの育ちというのを大人は見守る責任があるのだなということを思いました。

　だからこういうふうに困っているから行政に頼もうとか，それはもう家庭の問題だから家庭でどうにかしろとか，そういう次元ではなくてやはり大人として子どもを包括的に見ていく責任があるのだなということを感じました。

会　　長：ありがとうございます。ほかにありますか。ちょっと時間がたってしまったので，柴田先生のお話。何か主に学校とのつながり，地域と学校とのつながり，いろいろとお話ししてくださったかなと思いますが。

委　　員：コーディネーターの役割というお話がありましたけど，やっぱりつなぐ人というのが必要だなと思いました。

委　　員：では私からも少し。いろいろ前回柴田先生のお話をお聞きしながら考えていたのですけれども，子どもの権利という観点からも，結構誰が関わるのかというのはとても大事だなと感じました。人権とか子どもの権利といったときに，何が特別大人と違うのかというと，子どもは自分だけではなかなか健やかに発達していくというのは難しくて，周りの大人とか社会に援助を求める権利があると考えられているのですね。ただし，では誰でもいいかというとそうでもなくて，意外とどの大人が関わるのかというところが大事になってくると言われるときもあるのですね。そういったときにやっぱり地域のよく顔の知った大人，おじさんおばさんが，ちょっと言い方はあれかもしれませんが，周りのよく見守っている大人が関わっていく，適切に関わっていくというのがとても大事で，かつ，やっぱり学校というのがすごく子どもたちの居場所，日中活動としてもやっぱり時間がすごく長いですし，関わりとしてもやはり先生方を中心に密な関係性を築いているという意味では，学校がプラットホームになりつつ，地域と子どもたちを結びつけていくという観点はすごく大事だなと思いました。

　そういう意味では，学校を中心にした地域の取組にちょっと着目するというのも大事ですし，あとは学校外のどういった大人たちが子どもたちに関わるべきなのか，あるいはどういう場があるのか，先ほども挙がっていたたまり場のような地域の資源というのが，ここに直接関わらない地域の大人たちも知っていく，そして子どもたちに伝えていくというのが大事なのではないかなと，先生のお話を聞きながら考えていました。

会　　長：ほかに何かありますか。

委　　員：今，学校がプラットホームという話がございましたけれども，私は国分寺市の防災推進委員という形で参加させていただいています。防災の関わりとしては小学校が一応避難場所になっていますので，小学校での避難訓練で，そういったものを通して保護者の方と顔見知りになったりですとか，また学校キャンプという中で防災訓練というのを子どもたちと，毛布で担架とか，防災活動とか，そういったものを通じて子どもたちと顔見知りになって，あと防犯パトロール

もそうですけど，地域にこういう大人がいると顔見知りになるというのが，やはり子どもたちにとって大事なのかなと感じています。そういった子どもたちに関わりたいといいますか，地域とつながりを持ちたいという大人も国分寺には多いと思いますので，そういった方にこういった講演会だとかのお知らせをお伝えしてもいいのかなと思いました。

会　　長：ありがとうございます。何か学校として地域とのつながりを持つことについて何か。

委　　員：当日参加できなくてとても残念だったのですが，今，お話を伺っていて，学校が居場所だと捉えていただいたので非常に心強いなと思いました。ただ，地域の方を知りなさいといっても，家庭で例えば北地区委員会の何かの主催にその方が実際に行くかどうかは本当に家庭に関わってしまうので，差がすごく大きいと思うのですね。親御さんに関心があるかどうかによってすごく違いが出てしまう。逆に先ほどの学校が何かそういうイメージをちゃんと持っていればということだったので，今，学校でやっているのは吹奏楽の練習のときに，地域の方にお手伝いに来ていただけると，この人が地域の人だという，来ていただくと子どもたちも安心して関われる。だからなるべく多くの方に学校に入っていただけるように，本年度から学習ボランティアという，十小の場合はコミュニティスクールではないのでなかなか立ち上げるのが難しいのですが，ぜひ学校にいろいろな大人の人が出入りしてもらって，自分たちの学習とか教育活動を助けてくれている人なのだという，顔見知りに本当になるような働きかけを学校側が仕組んでいくというと言葉はあれですけど，そういうのも大事なのだなと思いました。

会　　長：ありがとうございます。ここ２年ぐらいはコロナのことがあって，なかなか学校のほうにも行けない状態が続いていたのですが，少しずつそういう感じで学校にも行けるようになってきていますね。ほかにありますか。

委　　員：ちょっと今おっしゃったことと同じようなことなのですけれども，私，以前東京都の教育モニターをやっていたことがあるのですね。それでよく，私は府中高校に行けと言われて，府中高校に２年間ぐらい，３か月に１回ぐらい行っていたのですね，学校を見に。そのときにちょっと思ったこととやはり同じようなことは，小学校とか中学校で，国分寺もやっぱり，それは本当にボランティアですから，どうしても行けないときは行かなくていいのですけれども，きちっとやっぱり来て，子どもたちがどういう勉強をしているとか，子どもたちがどういう先生の学習をどういうふうに聞いているとか，そういうことを見ながら，それぞれの地域でそういうモニターみたいなものを募集して，みんなそういうのに参加していったらいいと思うのですね。

　私なんかも周りを見ていましたら，学校できちっと学童とか行っている子はいいのですけど，そういうのに行けない子どもとか，やっぱりそういう子ども

はなかなか見えないのですね，地域にいますと。時々小学校から帰ってくるのを見ながら，じっと待っていても，この子たちは幸せなのかな，そういう気もするのですけれども。全く放棄されて，ヤングケアラーという言葉も実際は世の中で言われているわけですけれども，そういう子どもたちは国分寺市にいないのかどうかですね。そういう子どもこそやっぱりもう少しみんなで守っていくようにやっていかないと，世の中はよくならないのではないかなという気が，先生の話を聞きながらちょっと思ったことはあるのです。

会　　長：そうですね，見えない子どもはいたりしていますね。ちょっと心配だと思うことがありますね。

委　　員：いろいろな行事に参加できない子どもがいると思うのですね。

会　　長：そうですね。

委　　員：参加している子どもはいいと思うのですね，地域として，見守っていくというのは。しかし，本当は見守ってあげないといけない子どもが見えないというのはやっぱりあると思うので，これはやっぱりプライバシーの問題とかいろいろ難しい問題もあるのでしょうけど，そういうことも考えていかないと本当によくならないと思うのですね。

会　　長：ありがとうございます。ほかにありますか。

委　　員：私もちょっと似たような意見になると思うのですけれども，やっぱりキーワードは参加するというところなのですけれども，その参加が強制ではなくて主体的に，例えば保護者が学校の行事なり地域の行事なりに参加する。そこで知り合って顔見知りになってというのが理想ではあるのですけれども，ただ，先ほどちょっと出ていましたけど，なかなか地域の行事に出ようという保護者はそんなに多くないと感じています，ＰＴＡもそうなのですけれどもね。

　ただ，出ろとも言えないし，主体的に何か出たい，出てみようという機会づくりというのをどうやったらいいのかな。ただ，一方で結構そういうのに関心が高い方もいらっしゃって，そういう方同士の交流は間違いなくあるのですけれども，実はそれ以外のところで事情があって出られない人もいるでしょうし，あまり興味がない人もいるでしょうし，お仕事がお忙しくてなかなかそこまで余裕がないというか，気にしていられないわという人が多分いらっしゃると思うのですね。そういう方を含めてどうやったらもっと自主的に参加いただけるようなチャンスを作れるか。それが１つの解決としたら，もしかしたらもうちょっと情報共有を強化するのか，こういう場があります，こういう機会があります，これもそうだと思うのですけど，そういうのを何かもうちょっと目に触れるような機会を増やせるといいのかなとは思います。

　例えば公民館にもいろいろなイベントとか行事のチラシとかあるわけなのですけれども，公民館に行く人自体が多分少ない。

会　　長：そうです，限られています。

委　　員：ですよね。そういうのに興味がない人って，多分公民館に行っても絶対見ないと思うのですね。そこは結構課題かなとは前々からちょっと思っていまして。

会　　長：そうですね，ＰＲの仕方とか。

委　　員：そうですね。どうやったら強制でなく，何かふだんの生活の中で，「へえ，こんなのあるのだ」そこからちょっと行ってみようという，その流れがもうちょっと増やせるといいかなという感じはしました。

会　　長：私が関わっている青少年育成地区委員会なのですけれども，中央地区というところで一中学区内なのですね。一中学内の小学校が三小，五小，九小なのです。それで昨年，初めて地域の農家さんのジャガイモ畑をお借りして，ジャガイモ掘りを 12 月にしたのです。一応１年生から６年生まで参加オーケーだったのですけど，30 人募集したら 100 人来てしまったのです。それで 100 人でもちょっとびっくりしてしまったのですけど，子どもたちがとにかくこのコロナの中で，やっぱり外で，屋内ではなくて外でできるということがよかったらしくて，すごくたくさん来ていただいたのです，昨年は。

　本当に土に触れて，みんなで一生懸命ジャガイモを掘って，掘り切れないところをその農家の方がトラクターを出してきて，トラクターでジャガイモを全部掘り返すのですね。やっぱりトラクターが，働く車がすごくよかったらしくて，もう来て，動いて，掘り起こしたのを子どもたちが見て，歓声を上げて拍手喝采なのです。すごいなと思ってびっくりしてしまったのですけれども。終わった後もトラクターと写真を撮りたいとか言って，運転席に座って写真なんか撮る子たちもたくさんいたのです。

　それが昨年だったのです。そうしたら今年倍の 200 人になってしまって。それで何かとにかくすごく楽しかったらしくて，学校でもすごく話題になって，もう，昨日行ったよねとかいって，ジャガイモを袋詰めで最後お土産に渡すのですけれども，来年も行こうね，行きたいねと言って，行っていない子たちにも声をかけて，僕も行きたかったとか言って，また人数増えてしまうかななんて話もしているのですけれども。だからそういったやっぱりみんなが楽しめる，みんなが集まれるような，そういう場所が。

　ただ，やっぱりコロナのことがあるので，あまりたくさん人数は呼べないかなと，ちょっとそこら辺があるので。

委　　員：それ，チラシを三小，五小，九小の学校を通してチラシを配ったのですか。

会　　長：そうです，小学校で配ったのです。

委　　員：それで申込みをしてもらった。

会　　長：そうです。以前は中央地区祭りといって，一中でお祭りをさせていただいていて，そのときはもっとやっぱりたくさんの人数が集まったのですけれども，今，お祭りができないので。やっぱりお祭りとか，そういうのができるとたくさん人が集まれるのかなというのはちょっと思いました。

委　　員：多分そういうのも何か求めていますよね。みんなではないかもしれないけれども，どこかで求めているのですよね。

会　　長：そうなのですね。すみません，私の話になってしまって。何かほかにありますか。ないようでしたら，先に進ませていただきます。今の皆さんのお話を参考にしながら，今年度進めていきたいと思います。

　では，（２）の「令和４年度の進め方とスケジュールについて」ですが，事務局のほうからよろしくお願いいたします。

事 務 局：資料１を御覧ください。表面につきましては，令和３年度これまで４回皆様にご協力いただいて実施してきた内容になります。そして，裏面に令和４年度の計画案を記載しています。本日５月６日に１回目を開催していますが，今後の進め方についてはご相談になります。今年度は５回の会議開催を予定しておりますが，それをいつ頃に開催していくかというところになるのですが，事務局の案としましては，第２回のところで今期のテーマであります「地域でやさしく育てよう子どもの心」をテーマとした勉強会を行い，３回目，４回目の会議で成果物の内容協議。できれば，４回目の会議では，３回目までに行った検討内容を踏まえて事務局のほうで少し形にまとめたたたき台のようなものをご提示できればと考えております。そして最後，第５回の会議で，完成版を皆様にお見せして確定しましたら，実際に印刷もしくは成果物の外注をして作り，配布をしていくという流れを考えています。この第５回会議が 11 月頃に終われば１月ぐらいまでに成果物を市内のいろいろなところに配架できると考えております。

　令和４年度中に何か成果物を作っていくという方針で今までご議論いただいていたと思いますので，今日の第１回の中では少なくとも成果物をどのようなものにするのか，あとは講演会をどうされるのかというところについて決定いただきたいと思います。その内容に従って事務局のほうで第２回の７月に向けて先生や会議室の調整を進めていきたいと思っております。以上が事務局として考えた案になりますが，皆様からご意見いただいて最終決定いただければと思います。

会　　長：ありがとうございます。進め方とスケジュールについては，今，事務局から説明がありました。それについて何かご意見とかありますか。スケジュールとしてはこれでよろしいでしょうか。また進めていくうちでちょっと変更とかもあるかもしれませんが，一応このスケジュールに沿って今年度は行っていきたいと思いますので，よろしくお願いいたします。

　では，３番目の「今期作成する成果物について」ということで，お手元に資料２と資料３があると思いますので，御覧になってください。資料２は，こちらは前期のポスターですね。ここの市役所とかにも貼ってあったりするので，きっとお目にとまったりとかしているかもしれませんが，真ん中のハートがピ

ンクになっていて，相談，手のひらにハートが受け止められているような形になっています。一応「子育て四訓」というのが，この前もお話ししたかもしれないのですが，結構これが有名で，たまたま前期ご一緒だった方が，日光の東照宮にこれがちょうど掲げてあるのを見て，こういう言葉がありますよということで紹介していただいて，昨年度はちょうどスマホとかＳＮＳの話をしておりましたので，最後に「そしてたまにはスマホをはなそう」というのを協議会のほうで取り入れて，国分寺の「子育て五訓」という形でさせていただきました。昨年はやはり何度もお話ししているとおり，コロナでしたので，リーフレットでお手元に届けるよりもポスターがいいですかねということで，ポスターになりました。

あと，もう１つの資料３のほうは，これは東大和市のものですね。

事 務 局：東大和市の青少年問題協議会が作成したリーフレットを，当市のほうにも共有していただきましたので，成果物の参考例としてお配りさせていただきました。現物は三つ折りになっていて，表紙は絵が描いてある「子どもたちの夢と心をはぐくむのは私たち大人です」というものが表面になり，三つ折りにされています。開くと，重点目標として家庭と地域と学校，先ほどの皆様の感想のところでも出てきたワードがあるかと思うのですが，それぞれの場所でこういった目標を掲げて取り組んでいきましょうというような内容が記載されているリーフレットになっておりました。

会　　長：ありがとうございます。何かちょうどこの重点目標は，私たちの考えていたところなので，こういった形でまた作れるといいかなと思います。

成果物についてなのですが，どうでしょう。皆さんちょっとお考えを聞かせていただきたいのですが，どういったものにしたいとかありますでしょうか。

リーフレットにした場合は，配布先はどういったところになりますか。

事 務 局：まず市の施設には配架依頼のほうをかけさせていただきますので，先ほど出てきた公民館や児童館には配布できると思います。あとどれくらいの枚数が作れるかによるのですけれども，何か展示イベントなどに一緒に配架依頼をして出させていただくとか，そういった工夫はできるかなと考えます。成果物の大きさや白黒やカラー印刷等によっても，かかる予算は変わってくると思うので，できた成果物によってできる限りの配布をしていきたいと思っております。

委　　員：前回はポスターだったのですけれども，その前は「子育てカレンダー」だったと思うのですが，あれは何部ぐらい刷られたのですか。結構いろいろなところで配られていたと思うのですけれども。

会　　長：あれは小学校とかに配られましたか。

事 務 局：すみません，ちょっと今すぐ数字が確認できずお答えできません。申し訳ございません。

会　　長：取組カレンダーと１月から 12 月まで取り組む内容が書いてあります。これは

結構あちこちに配られていましたよね。

委　　員：そうですね。多分いろいろなところに置いてあったので，それを手にとられた方がどのくらいいるかなというのが気になりますが。ポスターで目についたところで，どこに置いてあるかというのが分かるのならいいのかな。あと，やはりＰＲの仕方もそうですけど，市のホームページとかで，今，子育て若者支援というところから入ってくるではないですか。そこに行くまで，多分暮らしの情報から入って，そこの暮らしの情報まで行かないと入っていけないというのはなかなか誘導がうまくいかないのかな。

会　　長：ぐるっと回らないといけないから。

委　　員：そうですね。

事 務 局：広報担当の部署と協議をさせてもらい，トピックスのところに一定期間にはなってしまいますけれども，例えばできてすぐの時期だけでもトップ画面にトピックスを置かせてもらうとか，そこは協議させていただきながら，張れるようでしたら依頼のほうを出して，告知のほうができたらなと思います。

委　　員：１つの案なのですけれども，私，国立の子どもの人権オンブズマンというのをやらせてもらっていまして，国立市の取組で，子どもの居場所マップというのが，結構カラーできれいに，全て公的なものから民間のＮＰＯがやっているものとかいろいろ，放課後デイとかも含めてですね，いろいろな居場所を網羅したマップを作ったのですね。すごく分かりやすくていいなと思っていて。国分寺市，ちょっと事前に今日の打合わせをやったときに，事務局さんのほうにちょっと聞いたところ，前にこの資料４番ですか，「居場所づくりハンドブック」というのを作りましたということで頂いたのと，あとこの「ホッとおれんじこくぶんじ」ですか，子育てガイド。確かに先ほどのお話のとおりで，行き着くまで結構情報量があるのですけれども，これの 35，36 ページが子育てマップということで，親子広場だったり，児童館，市の施設，こくぶんじ青空ひろばということで，子どもの居場所のマップが載っている。

　ただ，確かにこれを直接目に触れるのはなかなか至難のわざかなというところもありまして，何となく１つのアイデアなのですけれども，この青少年問題協議会として子どもの居場所マップのようなものを作って，リーフレットにして皆さんに見てもらうというのは，１つ面白いのかなとちょっと思いました。

　実は私の子どもも九小学区でこの近くなのですけれども，最近ちょっと行ってないのですが，プレイステーションによく行って，泥だらけになりながらにこにこで帰ってくることが結構何度かありまして，結構身近にもそういうところがある。前回の柴田先生のお話でも豊かな暮らし，豊かな時間，空間を保障することが，やっぱり非認知能力の発達につながるのだという話もあったので，こういう子どもの遊び場を知ったり，広報していくというのは，仮にそこに直接関わっていない大人であっても，そういうところがあるのだなとか，先ほど

の皆さんの話とか聞いていても，やっぱり子ども同士の横のつながりというのも，斜めの関係というのは最終的に地域としては大事だと思うのですが，そこに至るまでやっぱり横の口コミというのですか，○○ちゃんが行くらしいから一緒に行きたいとか，そういう横のつながりをうまく生かしながら参加を促していくというのもとても大事かなとちょっと思いました。

そういう意味で，子どもたち同士がネットワークを持てるような居場所をＰＲしていくみたいなことも面白いのかなと思いました。

会　　長：ありがとうございます。子育てマップ，いろいろな場所が書いてあるのですけれども，そういった子どもたちが遊べるような場所みたいなものが，ピックアップして入っているといいですよね。

委　　員：それこそ，たまり場のほうでもしよろしければ，そういったところ，子ども食堂とか，そういった居場所も載せていく，地域の方の取組というのも載せていくというのもいいかなと。

会　　長：ほかにご意見とかありますか。

委　　員：今の意見に関連してなのですけれども，私もそういう方向に賛成で，ちょっといろいろ拝見したときに，例えばこうしようとか，ああしましょうとか，こういうことが必要ですと保護者の方が受け取ったときにどう感じるか想像すると，そんなの分かっているわよと。多くの人は，確かにそうだよね，でも・・・となると思うのです。なので，それぞれ温度差があると思うのですけれども，実際にどんな場所があるのかとか，どんなイベントがあるのかとか，どういうサポートがあるのかというリアルな情報，すぐに行動に移せる情報があると，参加にもつながりますし，先ほど配っていただいたチラシだけでも，こんなすてきなイベントをやっているのだと僕も思ったので，そういう情報を提供してあげると，１つのきっかけになるかなという気はしました。こうしましょう，ああしましょうも大事なのですけど，そうなのだけどね，と思いました。なのでポスターもポスターで非常にインパクトはあるのですけれども，やっぱりリーフレットで日頃何か見て，ああ，では今度これ行ってみようとか，そういうアクションにつながるもののほうがいいかなと思います。

委　　員：ＱＲコードとかつけて，その情報が更新されていって，その情報がとれるとかというのがいいかもしれないですね。

会　　長：そうですね。今，結構ＱＲコードをみんな使っていますよね。

委　　員：そうです，何か考えるではなくて，続いていくといいですね，そういうプラットホームというか。

委　　員：今月はこんなことがありますよ，というページの更新とかが大変かもしれませんが。

委　　員：誰がやるのか。

委　　員：ほっとおれんじにもＱＲコードがいっぱい貼っていますけれども，どこをとる

かでやっぱり。市報とかでいろいろ情報とか，こういうことをやっていますと書いてありますが，ちょっと入ってこないというか，もう少し工夫して配置を，同じ配置で並んでいるとどうしても目が飛んでしまうので，１つの枠か何かで，子育て支援のようなことの紹介がそこに入っていくようにする。多分毎回何かしら載っているのですけれども，なかなかそこから情報を得ようというのは，忙しい方はしないのかなという気がします。それよりＱＲコードがあって，ここで確認みたいにして，その中で気になるイベントを見つけていただければ。最近は紙で見るというのに慣れていないと思うので，画面で見て，すぐに飛ばしたりするというのがやっぱり今の流れですよね。

会　　長：そうですね。本当に若い保護者の方たちはもう本当にＱＲコードで頻繁に見て，紙というよりもそういう方が多いですね。

委　　員：子育てしている中でも見ていますから。

会　　長：そうですね。

委　　員：子どもをあやしていても見ているようなときもあるし。そういった意味では隙間時間に情報がとれるような仕組みがあれば，もう少し伝わるのかなと思います。

委　　員：前，私，ウェブサイトのデザインの作り方みたいな，ちょっとかじったことがあるのですね。その中でスマホがメインなので，あまり見出しのところにごちゃごちゃいろいろ細かい情報はあえて載せずに，やっぱりキャッチコピーというか，「これやりませんか」みたいな，「こんなのあります」みたいな，ちょっと興味を引くようなものがあって，そこに例えばＱＲがあって，見にいってもらう。内容があまりごちゃごちゃしなくても，ちょっとシンプルにして見やすくしてというのはあるのかな。

会　　長：今，いろいろご意見があったのですけれども，成果物としてポスターとリーフレット両方作るというのは，予算的には厳しいですよね。

事 務 局：成果物にかけられる予算的な話として，先ほど過去の配布数の質問にすぐ答えられなかったものですけれども，今確認できまして過去は 5,000 枚配布していました。今回のそのくらいの予算規模になります。

会　　長：5,000 枚ですか。

会　　長：さっきのピンクのリーフレットですね。

事 務 局：そうです。各施設に配架，あと関係団体さんに配布させていただいて，お配りいただいたという経過があります。なので 5,000 枚，チラシというかリーフレットになれば 5,000 枚作れていますので，その枚数の配分を変えたりとかすれば，両方作成することも可能かと思います。

会　　長：ほかに何かご意見はありますか。

委　　員：ちょっといいか分からないのですけれども，例えば子どもが喜ぶような，夏休みの間，子どもが喜ぶようなものをやっぱり企画して，そのイベントみたいな

やつをみんなやっていきたいと思う。私，たまたま近くでさわやかという老人施設があるのですけれども，そこのところにみんなよく音楽とか聞きにいくのですけれども，そこでカブトムシをみんなで採ろうということをよくやるのですね。みんな近所の子どもはわーっと行くのですね。やっぱりカブトムシというのは，生きているやつはなかなか最近見ないですね。あそこはちゃんとそういうものを自分たちで育てていますから，そういうものをわっとみんなに，何人か分けて，やっぱりそういうものを夏休みの行事にするとか，蛍を見る会を作るとか，そういうイベントみたいなのをやって，子どもたちがもっと集まるような場をたくさん作ってあげたらいいと思うのですね。もちろんきちっと保護者もいて，保護者が嫌だったら周りの人間がきちっとガードしてやれるようにしてやれたら，子どもというのはもっと生き生きすると思うのですね。

プレイステーションだって，うちの近くで前あったのです。必要だったなと思っている人はやっぱりいるのですね。だから，ああいうものも，もちろん地主さんが返してくれと言って，今の住宅が建っているのですけれども，そういうものをもう少し行政のほうできちっと，例えば老人には結構ゲートボール場を作ったりするのですけど，ほとんど誰も使っていないのですね，現実は。子どもはしょっちゅう公園とかで遊びますので，そういうものをもう少しバランスよくやってくように考えてあげたらいいと思うのですね。使っていないこういうたくさんの土地を利用して，しょっちゅう子どもが遊んでいるところは，あれも閉鎖してしまうというのはちょっとおかしいなと思うのです。もうちょっとイベント的なやつを休みのときに，学校に行けないですから，学校行かない間はやっぱりあぶれてしまう子どもだっていると思うのですね。そういう子どもにやっぱり地域でイベントを作って，地域で子どもと関わってみんなと一緒に遊ぶようなものを作って，提供したらいいと思うのです。

イベントニュース見たり，８月にはこういうことをやりますよとか，それをもっとみんな募集して，それでたくさんの人を，野外にすればコロナもそんなにそんなに問題はありませんから，屋内ではないですから。そういうものをやらせてあげたらうんと喜ぶと思います。

会　長：地域のそういったイベントとか。

委　員：イベントの支援をやっていけばいいと思うのですね。

会　長：国分寺はまだそういった自然がまだ残っているところが，あちこちたくさんあるので。

委　員：国分寺は史跡に登録されて 100 年ぐらいたつわけですね。そういうものに引っかけていろいろやっていければ，聖武天皇と光明皇后というのは，やっぱり福祉とかそういうものに相当力を入れられたわけですね。病院を作られたり，いろいろされたわけですから，そういうものをもう少し宣伝しながら，いいと思いますね。

そうするとまち全体がやっぱり，国分寺史跡制定 100 年といって大騒ぎしているわけですから，もう少し盛り上がってできるような気がするのですね。

会　　長：ありがとうございます。何か他にご意見とかありますか。何かいかがでしょうか。この「子ども居場所ハンドブック」は，令和２年の１月に発行となっているのですが，この後，何かまた新たに作るとか。

事 務 局：こちらについては，紙での発行はその年度限りなのですけれども，ホームページの中では情報を更新しながら見ていただけるような状況にはなってございます。

会　　長：ありがとうございます。先ほど話に出たたまり場って，ここに載っているのですか。

委　　員：はい，載せているのですけれども，場所がもう，ちょっとここは移動してしまったというか，使えなくなってしまったので，今，場所はないのですけれども，一応本多公民館を中心に活動しています。

会　　長：プレイステーションも場所が変わりましたし，ちょっとこの中のことが変わってきているところがありますね。

委　　員：せっかく予算を使って作るのだとしたら，ただの紙だと，結局今までも，ちょっと更新はされてないにしても，マップというのが出ているわけですよね。ほかでも見たことがあるような気がしますし，何かずっと使えるようなものがいいかと思います。

会　　長：ずっと使えるようなものですね。

委　　員：ずっと使えるというか，紙を印刷しただけだと何かもったいないような気がするのですが。それで子どもの居場所で，子どもがここに行くと遊べるなとか，そういうのが分かるのはいいのですけれども，やっぱり大人を巻き込みたいと思うのですね。だから地域の大人を巻き込むためには，地図だけではなくて，何か一工夫というか，大人たちも地域の子どもを支えるためにこういうふうにしなくてはいけない気持ちにさせるというか，大人を巻き込めるような何か形ができたらいいなと思います。ちょっとすぐには浮かばないのですけれども。この東大和市の，全ての大人が積極的に子どもたちと関わろうということを訴える，何か形ができたらいいなと思うのです。

私たちのたまり場の今回５月 15 日の行事に関しても，七小学区なので，七小には配っていただけたのですね。だから学校も地域の行事をどんどん取り入れてというか，チラシを配るだけでもありがたいのですけれども，そういうのをしていただけたらなと思います。

会　　長：前回の勉強会の話ではないですけれども，学校と地域のつながりですよね。

委　　員：そうです。いろいろな子がいると思うのです。なかなか学校でこうやるよ，「はい，僕行く」とか言う子もいれば，なかなかそういうところにはちょっと行けないけれども，こういうところだったら行けるとか，いろいろなタイプの

子どもたちの居場所みたいなものが提供できたら，地域の全ての子どもたちに行き渡る，みんなが参加できるような場所ができるのではないかと思うのです。だからプレイステーションに行ってどろどろになった，そういう子もいれば，なかなか家から出ないで，お母さんが帰ってくるのを待っている子もいると思うので，いろいろなタイプの子どもへの呼びかけができるような，ごめんなさい，うまくまとまらないのですけど，そういうのができたらいいなと思います。

会　　長：いろいろなタイプの子が参加できるような感じですよね。

委　　員：「子どもの居場所づくりハンドブック」を拝見していて，内容は結構充実しているなと私は感じたのですね。実際にお子さんたちから声を聞いてまとめたりとかしているのですけれども。例えば４ページ目辺りで，小学校，中学校，高校で年代別にそれぞれ求めている居場所がちょっと違うのだよとか。多分先ほどのお話でも，同じ年代の子でも１人１人やっぱり心地よい居場所というのはちょっと変わってきたりもするのだろうなというのがあって，マップを作るにしても色分けというか，その辺が分かるような分かりやすさ，配慮があったりするといいのかななんて思っていて。

確かにこういうマップ自体はもう複数あるので，わざわざ作るのであれば何か特色というか，オリジナリティというか，メッセージ性というか，皆さんがおっしゃるように強制ではないのだけど知ってほしいし，それがとても大事だと感じてほしいなという思いをどうやったら伝えられるかなと，私はそういうふうに思います。

会　　長：そうですね。何かまだ漠然としていてアイデアが出てこないのですけど。他にいかがですか。

委　　員：私も先ほどから皆さんおっしゃっているこの「子どもの居場所づくりハンドブック」は非常に内容が充実していて，こういうのがあるのだなと。まさにこういうのを作ればいいのではないかなというのがもう既にあるのですよね。これに勝てるのができるのかなというのが，非常にもう完成されて，いいのがあるのだなというのが実感で，これに先ほどからお話が出ているように，やっぱり強制ではなくて，青少年問題協議会としての特色を出さないと，これを１枚にまとめる作業だけ大変で，同じものというのではちょっと意味がないのかなとは感じています。難しいですね。

会　　長：難しいですね。確かに網羅されていますよね，いろいろなところが。

委　　員：そうですよね。

委　　員：情報へのアクセスの問題かもしれませんね。

委　　員：そうですね。

委　　員：問題は情報へのアクセスかもしれませんね。こういうツールに対してアクセスが不十分で，私自身も子どもの親なのですけれども，あまり知らなかったです。

委　　員：ちょっと今のに関連してなのですけれども，オリジナリティはなかなか難しく

て，コンテンツ自体のオリジナリティ，私，昔ちょっと宣伝の仕事もやっていたのですけど，そのときにやっぱり，より伝わって相手の心を動かして，相手の行動を促すといったときに，必要というか，有益というか，やり方としてはやっぱり人間のメッセージを載せる。例えば私たちのメッセージ。協議会としてのというよりかは１人１人の思いとか，保護者としてのメッセージとか，個人としての何かメッセージみたいなのがあると，何か心に響くものがあるのではないかなと思います。このメンバーの皆さん，すごく意識高いですし，志があると思うのですね。ＰＴＡもそうなのですけれども，なかなかその意義は伝わりにくくて，単純にこんなことやっています，あんなことをやっています，すごいでしょう，意義あるでしょうといっても，ふだんそこまで意識していない人からすると，「うーん，関係ないわよ」となるのですけど，心というか，今回心がテーマですので，心でこう思っています，もっとこうしたい，こうしていきたい，皆さんとこういう地域を作っていきたいみたいな，そういう心が伝わると，読んだ人も，みんなが読まないかもしれないのですけど，読んだ人も「ああ」とちょっと心動かされるというか。

単純にコンテンツの充実度はこれにかなわないと思うのですけれども，心を動かす何か，そうですね，メッセージがあるといいのかなと思いました。

会　　長：本当にお１人お１人がいろいろなお考えを持って，しっかりと考えていらっしゃるので。

委　　員：今回のこのメンバーがある意味オリジナリティだと思うのです。それを今年度私たちの成果として，私たち１人１人から例えばメッセージを入れるのか，共通でもいいと思うのですけれども，そこにオリジナリティがあるかもしれないなと思いました。

会　　長：ありがとうございます。ほかに何かありますか。いかがですか。

委　　員：皆さんいろいろなことをお考えになられていいなと思うのですけれども，紙は見にくいという，紙でないものということで，子どもらはもうスマホを持っていたり，親たちは必ず持っていると考えると，スマホでみんな見られたらいいですよね。それがこういう形でスマホを持っていても，冊子などは読まなきゃならないですよね。読むものではないのではないのかなと思うのです。見るもの。目的に合わせて見るもの。そうすると目的によって，あるいは年齢によってなど，時期によってとか，それでどんどん入っていけて，目的のものが幾つか見えてきていて，それが地図の中で，ここことここことこれとピックアップされて出てきていて，ここの地図が近いからポンと押すと，そこでこういうものがあるのだなと見えてくるぐらいのことはできていいのではないかなと。何か国分寺市も新しいデジタルの部署ができているみたいだし，そこの人たちは別なことをやっているのでしょうけれども，何かそのぐらいのやり方だと，子どもらも，今日遊びたい，この辺で遊べるところはどこだろうか。探していくこと

ができる。今日は学ぼうと思っている，だから学べるところはと検索して入っていける。それらしいところが幾つかあったら，見ていく中で選んで，これにしようというぐらいの，そのぐらいの動き方を子どもらも親たちもしているのではないのですか。

とするとこれは読まないです。とってもいいのだけれども。これもおしまいのほうにならないと見たい地図が出てこない。35 ページだって言われて，これ最初から読めば分かるかもしれない。読んでいる人は知っているかもしれない。だけどそうではなくて，これを使ってほしいのだったら，使える形にするのがいいのではないかなと。

今日，この子育てマップとか見ていて，ああ，親子のためのマップと，子どものためのマップと，それからさっき言われた高校生ぐらいのマップと，国分寺市の高校生は，市の高校はないのだからというところで外してもいいけれども，小学生，中学生は少なくとも，もっと下だったら親子のためのみたいな，それだけでまず限定的に選んでいけて，ポンポンポンっといかないのかなという気がするのですね。そういうのができていますよといって，この何ですか。

会　　長：リーフレット。

委　　員：これだけ出せばいいような気がするのですね。見て，入ってみて。そうしたら何やりたいとか，あなた幾つとかというところからどんどん入っていけて，それらしいものが見えてくるなんてならないのかなと思っていました。

会　　長：ありがとうございます。すごくいいですね，それは。自分でやりたいことを選べて入っていくと。

委　　員：それで最終的に３つぐらい見えていて，それの中身を見た中で，これにしようと選べる。そのときには地図は絶対必要という気はするのですね。

会　　長：ありがとうございます。他はいかがですか。

委　　員：おっしゃるとおりだと思います。あとは，例えば成果物にするのであれば，ポスターとか目につくような形にして，ＵＲＬに誘導するというやり方もありなのかなとは思いますね。もともとできているものをしっかり活用して。その手間は市の方にお願いするしかないと思いますけど。

会　　長：ありがとうございます。事務局としてはいかがでしょうか。そういった案が出ていますが。

事 務 局：意見としてはすごくいいなと思いました。できたらいいなというのも当然思うところではあるのですけれども，どれくらいの予算が必要になるのかという部分が気になります。ただ目指すべき方向としてはすごくいいので段階的に進めていければいいなというのが，市としてというよりまず私の感想としてはあります。

今，おっしゃったように，「ホッとおれんじこくぶんじ」という冊子としては１つのツールがあったりとか，ホームページも先ほど意見がありましたけれ

ども，深く入り込んでいけばいろいろな情報があちこちに散らばってあったりする。しかし，いろいろな情報があふれてしまって，逆にたどり着けない状況も発生させてしまったりするのかなと思うと，整理していかなければいけない，一つの課題かと思っています。

今年度の成果物をすぐにそれでいきたいと言えないのが心苦しいのですけど，本当にできれば理想だと感じました。

委　　員：今，予算ということで言われましたけれども，今のようなことで既にあるデータを並べ替えて，子どもらでもポンポンポンと入っていけるように，今あるデータを並べ替えて作るだけのこと，それだけのことを業者に委託して，30万円かかる問題ではないですからね。だから業者によっては半ばボランティアでという業者も出てくるだろうし，僕なんかは自分がそういうことをやろうとすると，すぐあっちの卒業生，こっちの卒業生が関わってきたり，やってもらってきているので。大きな業者に委託すれば，それはもう桁が変わってくるわけだけれども，小さな個人的なところを幾つか当たってみるという，比較していくというやり方をすれば，市だって通せないこともないのかなとか，そんなふうに思うと，そんなに大層な業務ではないよねという気はします。すみません，余分なことで。

会　　長：いえいえ，ありがとうございます。だそうですけれども。

事 務 局：検討はしたいというところで，実際私が今その分野で幾らぐらいかというのがまだ見当ついていなかったもので，先ほどの 5,000 枚という紙の印刷から比べると予算が足りない。そこに対して予算を流用するなら，庁内全体のバランスで判断してもらい，どれくらい充ててもらえるのか，今すぐこの場での回答ができないので，検討事項とさせてもらえればと思います。

会　　長：分かりました。では検討していただいて。今のお話で，スマホとかで活用できるような形にというお話もありました。あと，そのほかにやっぱりポスターとかリーフレットというお話もあって，スマホを活用するためにはやはりＱＲコードを取り入れたいので，ポスターなりリーフレットも必要なのかなということもちょっと考えていったほうがいいかなと思います。

　あとはポスターにしてもリーフレットにしても，やはり中にＱＲコード以外にどんなことを入れるかとかいうことですが，ちょっと皆さんで考えていければなと思っています。

　私も２期続けてこの青少年問題協議会に関わってきたのですが，正直なところ青少年問題協議会はどんなことをやっているのだろうというところで，多分国分寺の市民の方々もきっと分からない方がたくさんいらっしゃるのかなと思うので，私としてはやっぱりこうやって貴重なお時間で皆さんといろいろと話し合っていくことはとても大事だと思いますので，やはり私たちがこういうことを話し合っているのだよという，そういうメッセージみたいなものをやっぱ

り市民の皆さんに発信していきたいなというのがすごくあります。

先ほどでた１人１人の思いをメッセージとしてというお話は，この間も出ていました。

委　　員：皆様，なかなかいろいろなアイデアをまとめるのは難しい局面もあるかなということを想像して，場合によってはそういうメッセージを１人１人出すみたいにしてもいいかもしれないなという話をさせていただきました。

委　　員：今，会長が言われたところでちょっと気になるのですけれども，この会でどういうことをやっているのか，やってきているのか，私は来たばかりでよく分かっていない。どういうふうにやっていかれるのか，とにかくついていくだけだと思って来ているのですけれども。ただ，国分寺市にはいろいろな委員会とかがあって，似たような近い内容をやっているところもありそうで，その辺は線を切ってやっているのか，それとも連携すべきものがばらばらで動いているのか，あるいは先日の講演の中でも，あの市はこう，この市はこうで，こちらではこうやっていて，国分寺はこれが駄目ですよなんて言われてしまったわけですね。そういったところでやっぱり比較の目を持って，言うとあれだけれども，例えば八王子でも日野でも毎月やっているわけですよね。やることがあって，もう忙しくてと彼らは一生懸命動いているわけです。

だけどこちらは３か月に一回ということなので，ああ，ここはこういうことなのだろうなと思って見ているのですけれども，その辺もどうなのでしょうね，これでいいのなら，これでいいのですけど。

会　　長：なかなかそういう，ほかの市とか，ほかでやっていることはどういったことをやっているかというのも，ちょっと私としてはそんなに把握ができていませんでした。

委　　員：ですから余計な波風を立てるといけないなとは思っているので。

会　　長：いえいえ。

委　　員：今，非常になるほどなと思った上で申し上げますと，メッセージを発信するとしたら，国分寺市の方ですよね。ほかの市でどうというよりかは，国分寺市でこんなことをやっていて，こんなことにつなげたい，というメッセージを発信するとして，どうするか。あとはやっぱりメッセージを伝えるというか，何か発信する目的もやっぱり大事かなと思っていて，伝えて終わりだとちょっともったいないので，今回成果物としてつくろうとしていることへのアクションにつなげるためのメッセージなのか，単純に青少年問題協議会がありますよ，皆さん知ってくださいなのか，その辺にもよると思うのです。メッセージを発信するのであれば，やっぱり何かにつながるメッセージでいいのかなと思いました。

こんなのやります，こんなのやっていますで終わってしまうと，多分皆様も「へええ」で終わってしまうので。

会　　長：そうですよね。

委　　員：そこがより明確になるといいですね。

会　　長：ありがとうございます。

委　員：あとは，すみません，もう１点だけ申し上げます。多分コンテンツとかもすごく広げようとするとなかなか難しいものですよね，今年度中に成果物となると。なので情報もできるだけ絞るというか，テーマを決めて，ちゃんとアクションにつながるような感じ。いろいろありますではなくていいと思うのです。あまり広げすぎてしまうと難しいかなと思うので。

会　　長：ありがとうございます。ほかに何かありますか。よろしいですか。

　では，ちょっとまだ漠然とした感じではありますが，大体ちょっとイメージを持っていただいて，今後，お話ができると思いますので，考えていきたいと思います。

　それでは４番の「今年度の講演会について」ということで，日程としては次回７月に講演会，勉強会を予定しています。前回は柴田先生をお呼びしましたが，何かこういった内容の講演会，こういった講師のお話を聞きたいとか何か具体的にありましたらお願いいたします。前回は，学校と地域とのつながりみたいな，そういった話を聞かせていただきました。テーマとして地域で育てようということなので，やはり地域と子どもたちと私たちをつなげるような，何かそういった内容の講演会，そういった講師の方をお呼びできればと思いますが，何かありまか。

委　　員：例えば，先ほども出ていましたけれども，コーディネーターの方の話。実際にこういうふうに地域とか学校とか保護者とつながって，こういうことをやっていますみたいな，具体的な話を聞けると何かヒントになるかなと思いました。

会　　長：ほかにはいかがでしょうか。

委　　員：これまでどうやってきているかよく分からないのであれですけれども，前に児相の所長のお話を聞いたことがあるということでした。僕は児相にいたものだから，あまりそっちではなくて，子家センのほうはどうだろうと。

会　　長：子家センですね。子家センの方，どなたかお呼びしてお話を伺う。

委　　員：具体的にどうこうではないので，そういう組織もありますよねということで。

会　　長：そうですね。子ども家庭支援センターですね。ほかにはいかがでしょうか。どなたかご推薦とかありますか。

委　　員：そうですね，私も地域で居場所事業をされている方に直接お話を聞いて，地域のニーズを聞いてもいいかなとは思ったのですけれども，先ほどのお話，挙げていただいて，地域コーディネーター，前回の柴田さんのお話で，三鷹市でしたか，結構先進市で，中高一貫でコミュニティスクールを頑張ってやっているところがあると聞いたので，そういったところの方の地域との関係づくりとか，地域の力を生かした学校づくりをどういうふうにやっているのかというお話を

聞くのも面白いかなと思いました。

委　　員：これは聞ける人は限られているのですか，この勉強会に出席する人なのですが。

会　　長：出席はこちらの青少協の方になります。先ほど地域の居場所づくりということでちょっとお話に出たのですが，国分寺市のプレイステーションは今，子どもたちの居場所づくり，皆さんは行かれたことってありますか。ちょうど恋ヶ窪駅の線路に沿ったところにあるのですけれども，本当に子どもたちが泥だらけになって遊ぶ場所で，最近は夜中高生がいられる場所になったのですね。８時くらいまででしたっけ。

事 務 局：そうですね。

会　　長：本当に中高生も気兼ねなく集まれる場所として。いろいろ駄菓子屋さんもやったりとか，いろいろな企画をしているそうで。

事 務 局：そうです，東元町のほうから東戸倉のほうに移ったときに，今までは冒険遊び場というのが，全国的にも建物のある施設というのはほとんどなくて，たしか大きな建物ですと川崎にある「夢パーク」というところがあるぐらいで，どこもそういう遊び場に建物がないようなところだったのですが，国分寺市が今回建てたことによりまして，１階はいろいろな人たちが遊べて，２階は親子広場を入れつつ，中高生が勉強できるような部屋も１つ，多目的なのですけれども，空いていればそこに机を出して勉強ができるような空間も兼ね備えているような施設となりました。

　以前の東元町の地域ですと，中学生がほとんど来ていなくて，１日に１人いるかいないかというような状況だったのですが，東戸倉に移った後には，年間で多分 500 人とか，かなりの人が来られるようになっておりました。夏休みは建物がございますので，２階で中学生が勉強しに来たりするような施設にもなっていて，午前中は乳幼児とお母さんとか多くて，午後になると小学生たちが増えてきて，現在は「夕暮れカフェ」といって５時に１回閉めた後，その後もう１回再開をして，中高生が来られるような場所があります。その中高生が来られるような場所としては，勉強してもいいですし，自分たちがしたいことができるような，ただただ，ぼーと椅子に座っているだけというか，クッションみたいなのもあるのでそこに座っていたり，友達としゃべるためだけに来ていたりとか，あとはカフェということで，今，プレイステーションを指定管理として委託しているのですけれども，そこの１事業として飲み物が出るような，無料で飲めるようなカフェというような形で今，運営を行っています。

　あと土日ですと駄菓子屋さんがあったりしますので，そこで子どもが職場体験をしたりしますと，プレステの中で使える硬貨が対価としてもらえて，それをプレステの中で使って駄菓子を買ったりとか，そういう職場体験をしたりすることも可能になっている施設になっておりますので，ただただ駄菓子屋ということでお店が出ているだけではなくて，お手伝いをするとそこの対価として

コインももらえて，そのコインは駄菓子屋で使えるような，そういったいろいろな機能を兼ね備えた今現在，施設になっております。

会　　長：ありがとうございます。私も何年か前に見学で行かせていただいたのですけれども，前の西元町のところは本当に掘っ立て小屋みたいなところでしたが，今回はきちんとした２階建ての建物が建っていまして，あそこで結構小さい赤ちゃんとか，子どもたちを連れてきて遊ばせたり。あとはやっぱり外は本当に，だんだんびっくりするくらいいろいろなものができていまして，秘密基地みたいなのがあったり，多分皆さんが行かれたら，そういえばこういうの昔作っていたみたいな，皆さん驚かれるのではないかなというところですね。

　あとほかに何かこういったお話が聞きたいとかありますか。よろしいでしょうか。

　そうしましたら，まだちょっと時間がありますので，何かご推薦できる方とかがもしいるようでしたら，事務局のほうに連絡していただいて。

事 務 局：本日いろいろ成果物についてのご意見を頂戴しておりますので，もし何かこういったものがいいのではないかというようなことが思いつくような方がいらっしゃいましたら，個別に事務局のほうにメールを頂いても構いませんし，あと今，講師の先生のお話もございましたので，ご推薦いただけるような講師の先生のお名前を頂戴する，もしくは施設見学等に行ったところがあれば，そういったところもご意見頂きましたら，調整しながら進めさせていただければと存じます。

会　　長：ありがとうございました。では，これで時間は早いのですけれども，協議事項のほうを終了させていただきます。

　３番の「その他」ということで，何か全体，事務局のほうからお願いいたします。

事 務 局：すみません，皆さんに資料をメールで送らせていただいた際に，前回，令和３年度の第４回の議事録のほうも添付をさせていただいていたかと思います。柴田先生にも同じものを配布させていただいて，数か所修正依頼をいただきましたのでそちらを訂正させていただくのですけれども，委員の皆様からは何か訂正等ありますでしょうか。ありましたら後ほどで構いませんので，事務局のほうまで送っていただければと思います。今回，令和３年度までの議事録，あと会議資料等につきましては，今後市のオープナーですとかホームページ等で公開していく予定になっておりますので確認をお願いいたします。また，今年度の会議についても各会の議事録が決定次第順次公表していくことになりますので，ご理解のほどよろしくお願いいたします。

会　　長：ありがとうございます。

事 務 局：その他，今の予定ですと第２回の会議を７月に想定していますが，講師の方の手配であったり，施設の手配を考えると，そんなに余裕がないかなと考えてお

ります。ですので，ご提案にはなるのですけれども，候補を頂くのは来週の13 日までにさせていただいて，そこまでで頂いた候補の中で，20 日頃までには候補を絞って実際に依頼をかけていきたいなと考えております。そんな予定でも大丈夫でしょうか。

会　　長：大体７月のどの辺り。

事 務 局：それは依頼先，例えばプレイステーションなどの施設見学に行くということでしたら，施設のイベントなどにより調整になってしまうと思います。

会　　長：講師の方とかも。

事 務 局：はい。一応，７月の中旬頃を想定したいなと思いますが，いかがでしょうか。11 日の月曜日の週であったりとか。

会　　長：はい，分かりました。よろしいでしょうか，ご予定のほうは。また分かり次第ご連絡をお願いいたします。

事 務 局：今，候補で頂いているのは地域コーディネーターの方，子ども家庭支援センターの職員，あと国分寺市プレイステーション。この候補に優劣はございますか。

会　　長：皆さんいかがでしょうか。絶対ここが聞きたいとかありますか。

事 務 局：子ども家庭支援センターとかですと，実際に職員に近いというか，職員がおりますので，正直問題なくできるかなというイメージはあるのですけれども，別の施設や団体になってくると調整が必要になります。

事 務 局：あとは社協さんのほうでお願いしている地域コーディネーターの方が国分寺市に２人おります，東と西に分かれて。そういった方が地域の方とつながっているので，そういった方にお話を伺うということもできますので，そうするとちょっと日程を調整して，来ていただける日にちを決めないといけないかなと思っています。

会　　長：はい，分かりました。ではそこら辺は調整していただいて，またご連絡をお願いいたします。

副 会 長：今，順位が何となく皆さんの総意として決めるのであれば，そのほうが多分事務局としてはありがたいという話だろうなと思うのと，もし，そこまでちょっと決められないということであれば，最終的には会長，副会長，事務局である程度打診できそうなところを，状況を踏まえつつ確定させていただくという流れでよろしければ，そのような形にしようかと思うのですけれども，いかがでしょう，よろしいでしょうか。

委　　員：何を聞きたいか考える必要がありますよね。子家センでしたっけ，子家センの方にどういう内容のことを聞きたいのか，いまいち漠然としていて分からないのです。地域コーディネーターの方はすごく活躍されているのですけれども，今，こんな状況ですよというお話だけといってはあれなのですけれども。

会　　長：そうですね。

委　　員：今までこういうふうになって，こういうふうになりましたというお話はしていただける，一番よく分かっていらっしゃると思うのですけれども，そういう話を聞きたいのか，それから実際に地域の場として使われているプレイステーションを私たちの目で見て，それをどういうふうに生かしていくのかという，ちょっとみんなそれぞれ。

会　　長：それぞれ違いますよね。

委　　員：漠然としているなという気がするのですけど。

委　　員：全体的にこうなのか，イメージができるものでもいいと思うのですね。プレイステーションといっても，利用者というのは今，限られていますから。そういうことではなくて全体的に我々がまとめていったのに，周りの先生の方にきちっとお話ししてもらってもいいと思うのですけれどもね。偏ったほうばかりやると，偏ってしまいますからね。

会　　長：では決めたほうがいいですかね。

委　　員：順番としては，７月のお話も踏まえつつ，学校との結びつきをやられているような他市の。

会　　長：コーディネーターですね。

委　　員：コーディネーターの方にちょっとまずアクセスをお願いし，プレステも先ほど私も，ちっちゃい子の居場所かなと思ったら，結構幅広にやられている，どんどん拡大しているという状況もあるので，結構面白いのかなと思いました。

　子家センは，今年のテーマに沿って，子どもの子育て支援，それから要支援のお子さんとか，要保護のお子さんへのアプローチを主体的にやられている子家センの立場から，地域に求める子どもとの関わりとか見守りとか，地域に求めるものみたいなテーマでお話を頂くのか，どこまでお話しいただけるのか分かりませんけれども，そういうビジョン的な部分でお話しいただけるといいのかもしれませんね。

会　　長：そうですね。

委　　員：何となく地域コーディネーターの方が一番で，プレステが２番で，３番が子家センで，４番，社協の地域コーディネーターさんというような，何となく順序立てができるかなとは思いますが。

会　　長：順序立てとしてはこんな順番で。ありがとうございます。この順番でよろしいでしょうか。大丈夫ですか。

事 務 局：１番が他市の地域コーディネーター，２番がプレステ，３番が子家セン，４番に社協の地域コーディネーター。他にもしやっぱり誰か候補があれば 12 日までに頂いていいですか。13 日までに会長，副会長のほうに事務局から，意見こういうのがありましたと追加させていただくので，そこで再度調整いただいて，実際に依頼をかけていくという流れをとりたいと思います。よろしいですか。

会　　長：はい。

事 務 局：では５月 12 日までにもし候補が出てきましたらご連絡ください。よろしくお願いします。

会　　長：では，よろしいでしょうか。他に何かありますか，大丈夫でしょうか。

　それでは以上をもちまして，本会議を閉会いたします。本日はお疲れさまでした。ありがとうございました。

――了――